

## 市教協交渉で言及した休暇・休職制度の改善案確定

11月14日(月)に行われた、組合と京都市教育委員会との賃金確定交渉で言及のあった、休暇・休職制度における改善点の内容が確定しました。もう始まっているものもあります。以下、紹介します。

**介護時間** 負傷、疾病または身体上もしくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある親族の介護や世話をする場合の制度。1日の勤務時間の始めまたは終わりに15分単位で合計2時間。

取得可能期間を、「3年」から「5年」に見直す。

実施時期は、令和5年4月1日

**介護休職** 負傷、疾病または身体上もしくは精神上の障害により、1箇月以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある親族の介護や世話をする場合の制度。1箇月以上で連続する3箇月の範囲内、1日単位で取得。

昇給の復元措置を、「なし」から「100%復元」に、

退職手当の除算を、「全期間」から「1/3除算」に変更

実施時期は、令和5年4月1日

**子の看護のための休務** 負傷し、もしくは疾病にかかったその子の世話をする場合(子が在籍する学校等が、インフルエンザや台風等により休校、自宅待機となった場合も対象)、1日、半日、1時間の単位で取得できる。

「小学校3年生以下の子」を「中学校就学の始期に達するまでの子」に変更

実施時期は、令和4年12月1日

**育児休務** 出産日から起算して1年6箇月に達しない子を養育する場合に取得できる。

配偶者が育児休務を受けていない場合、「1日2回以内、合計90分以内」で、変更なし。

配偶者が育児休務を受けている場合、「1日1回、45分以内」を「1日2回以内、夫婦合計90分以内」に変更

実施時期は、令和5年4月1日

### 定年前再任用短時間勤務職員 及び 暫定再任用職員の休暇制度について

有給の病気休務の期間を、「40日」から「75日、または、4箇月(暦日)の長いほうの期間」に変更

育児部分休務について、「対象外」から「現行の定年前職員と同じ」に変更

実施時期は、令和5年4月1日

### 組合に入って、生活を守ろう

以上が、前回のニュースで詳しくは報告できなかった改善点です。多くのおみなさんが組合に加入して、教職員の団結の力で京都市教職員の生活向上となるような交渉結果とできるよう願っています。

## 「日本を戦争する国にする『安保3文書』の閣議決定に抗議し、撤回を求めます」

上記のタイトルの抗議文を、年末に、市高教組執行委員会(執行委員長 村尾竹郎)の名前で、首相官邸ホームページの意見募集アドレスに送付しました。政府は「敵基地攻撃能力」の用語を「反撃能力」と言い換えて、日本が先制攻撃することはないと宣伝しています。しかし、2015年の安保法制によって米国との集団的自衛権を容認してしまった現在、「敵基地攻撃」によって日本が加害者になってしまう可能性は捨てることができません。本日のシリーズ組合学校第5弾の資料には、政情不安な中南米で、軍隊をなくしたコスタリカの様子を紹介しています。コスタリカは、「積極的永世非武装中立宣言」を発表し、軍隊がないから守れないということではなく、逆に軍隊がないという事実を活用した外交を繰り広げ、幾多の危機を乗り越えてきました。大統領はノーベル平和賞を受賞しています。防衛に関しては、落ち着いて議論しましょう。

## 組合加入届

私は、        年         月より京都市立高等学校教職員組合に加入します。

        年         月         日

         高校          氏名

## 「紅葉の裏大文字ハイキング」

——に参加してみました。「自称裏大文字ガイド」のK氏の「裏」は「大文字」を形容しているのか「ガイド」を形容しているのか！？その謎を解くべく参加したのであります。

11月27日当日は快晴。「裏大文字日和」とはこのことか。集合時間より少し早く着いたのでその辺りを散歩しようとしているとK氏が銀閣寺の方から現れる。何でも既に入山届を出してきたのだという。集合時間前にT氏より連絡あり、「少し遅れるがバスの中で走っている」とのこと。

登山口を少し上ると通常火床へいく道から分かれて北側から山を登る。空気がおいしい。久しぶりに深い呼吸をしていると思う。鳥の声。H氏が「あれはツグミ」と教えてくれる。いくつもの岐路をK氏は軽々と選択。何よりも先頭を行くK氏の足取りが静かで乱れがないのが本物の名ガイドなのか、と思わせなくもない。

ようやくたどり着いた頂上では登山客が鈴なり。マスクを着けつつ合間におにぎりを頬張る。

帰路は熊山だの鹿山だのを通り、あと少しというところでダブルストックのおじさんが「メタセコイアの群落を見ないのか！！」と教えてくださり、もう一山登ることに。「一つ山越しゃホンダラッタホイホイ」という歌が昔あったような気がするが、いくつもの名もなき山頂を通り過ぎた所で「中尾城跡」に着く。案内のチラシに名前はあったが今回は行く予定になかった史跡にじんわり嬉しくなる。けれどもメタセコイアはない。「メタセコイアって何やっけ？」「そんなんないなあ、一杯喰わされたのかな」とか話しながら急坂を下り始める。

狭い道をすれ違う時に出逢ったグループの一人が上を指さしながら「あれ！」と言うのであわてて見上げてみると高いところに金色の葉を輝かせる樹木が群生している。「あれ、メタセコイア！」との声が響く。日吉にも紫野にもある木。でも一度は地球上から失われたとされていた木、それがいつのまにか日本にもたらされたのだという。そんな地球的規模の話とは別に、ふらふらよろよろになりながら下山を果たす。

そんなこんなでK氏が名ガイドであったかどうかという謎は有耶無耶のまま残され、その正体は次回に見極めたいと誓う。足元ばかり見ていて別のハイカーに遇わなければ「一杯喰わされた」と思い込んだままであったかもしれない。彼らのおかげで青空を背景にした金色のメタセコイアの姿を目にすることができて、幸せな気持ちで帰路に着くことができた。皆さんどうもありがとう。

それからついでに言うと、私たちには「こんな時間」が必要なのだと思う。別に裏大文字でなくてもいいけど。(MJ)



あやうく見逃すところ  
だったメタセコイア